

復刊記念!! 『SとN』

# ほろ酔い座談会

語り合うのはこの3人

長崎県知事 大石賢吾  
2022年3月就任

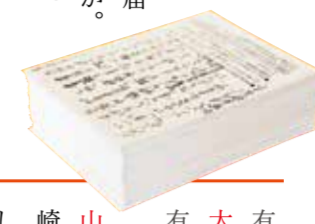


佐賀県知事 山口祥義  
2015年1月就任

佐賀県編集者 末崎光裕

長崎県知事 大石賢吾  
2022年3月就任

『SとN』とは? 2022年の西九州新幹線開業に向け、地域の魅力をさらに磨き上げていこうと、佐賀、長崎両県が協力して創刊したフリーマガジン。これまでに7号を刊行し、2県に暮らす人びとの日常や風景、物語を取り上げています。ぜひ、あなたの旅のコンパスをSとNへ。



聞き手 SとN編集者 末崎光裕

**山口** よーし、やろっ。  
**大石** 始めましょう!  
**有山** お願いします!

**大石** お便りがいっぱい届いてますね。何年分ですか。  
**山口** 6号分だけです。

**大石** すこい。  
**山口** 本日は、読者の方々に向けて、佐賀と長崎の「あれ面白いよ」という個人的な推しをたくさんお聞きしたいと思っています。

**大石** 僕よりも山口さんの方が長崎の魅力を知っているかもしれませんね。(※山口知事は元長崎県総務部長)

**山口** 長崎にしても佐賀にしても、地元の人と飲むって本当に楽しいからね。一同と書きます。

**山口** 単に飲むというよりも、地域とともに飲むみたいな、その感じがいいと思う。

**大石** 触れ合いですよね。  
**有山** この間の取材(7号)でも、島原の飲み屋でたまま着手のじゃがいも農家の人たちと会って、話してみたらすごく面白くて、次の日にすぐ畑に連れて行ってしまったんです。

**大石** 島原ですか。  
**山口** 2回目に飲んだ時は、総務11人でスナックに行って、「ヤングマン」を大合唱しました(笑)

**山口** 「ヤングマン」(笑)  
**有山** みんなうまいんですよ、カラオケが。町を取材する時は、そういう偶然や流れも大事にしていきます。

**山口** 7号は湯がわくまじ、水がわくまじ」がテーマです。この座談会会場のJR肥前浜駅周辺は、多良岳山系の伏流水が豊富で、かつて蒸気機関車に水を補給する給水塔がありました。佐賀県内でも屈指の酒どころですね。

**大石** お酒に合う肴を長崎から持ってきました。僕の故郷、五島(離島)の「鬼鯖」です。

**山口** おいしいよね。鬼語って珍しい名前前の山になんで、鬼のようにうまいんでしょ。鬼っていい言葉だな、地に根ざして。

**大石** さすが、長崎大好き(笑)。ええ、おいしいんですよ。  
**有山** 僕の祖母も、同じく五島の福江島出身なんです。で、佐賀に嫁いできました。NからSですね。

**大石** 僕はお兄ちゃんみたいに暮らってるんですけど、山口さんはどう感じているんですか。  
**山口** 僕が49歳で知事になった時、他県の知事は年上の方ばかりでね。隣に若い知事が誕生してうれいんですよ。

**山口** 僕が49歳で知事になった時、他県の知事は年上の方ばかりでね。隣に若い知事が誕生してうれいんですよ。

**山口** 僕が49歳で知事になった時、他県の知事は年上の方ばかりでね。隣に若い知事が誕生してうれいんですよ。

**山口** 僕が49歳で知事になった時、他県の知事は年上の方ばかりでね。隣に若い知事が誕生してうれいんですよ。

**山口** 僕が49歳で知事になった時、他県の知事は年上の方ばかりでね。隣に若い知事が誕生してうれいんですよ。



山口祥義 (やまぐち よしのり)  
1989年東京大学法学部卒業後、旧自治省(現総務省)入省。過疎対策室長、地域活性化伝道師(内閣官房)として全国の地域支援に尽力。JTB総合研究所、ラグビー-W杯2019組織委員会など民間でも活躍。2015年1月佐賀県知事に就任。

**山口** この駅は佐賀と長崎をつなぐ長崎本線にあって、多くの人々が行き来してきた歴史があります。だから大切にしたいと思って駅を改装し、この「HAMA BAR」を作った。ポイントは「ふだん使」にあって、地元の人たちが日常的に楽しんでいるところに旅行者も交じってほしいなというパーです。

『SとN』が具現化するように、「ふだん使いの場所」こそ、佐賀と長崎の最大の魅力がある」と思っているの、そこを価値にしたいな。

**山口** 「よそいき(余所行)」って言葉があった。観光客とかについて、かっこつけちゃってあるんだけど、それだと、本当のね、旅人の楽しさには結びつかないでしょう。

**有山** それありますよね。でも佐賀と長崎を長年取材で回って来て、初見でも取らないというか、疑わないうるか、そんな方が多いです。

**山口** 昼と夜とあんまり変わらないよ。佐賀人、長崎人っていうのは、佐賀人、佐賀人じゃないの。佐賀人、佐賀人じゃないの。

**大石** 変わらないですね。  
**山口** それに、佐賀と長崎はもともと一つだったからですね。長崎からどこに行くにしても佐賀を通りますし、文化が重なる土地が数々残っていますよね。非常に親和性が高い。でも佐賀の方々とあんまり飲む機会がなくて。

**山口** 国スポ(SAGA 2024 国スポ・全障スポ)の時に10泊くらい佐賀に…  
**大石** 10泊(笑)  
**山口** 土地って、さきつとまでただじゃわらなく。ベタって長くなる、人の流れや思いが見えるようになってくるじゃない。

**山口** 長旅だと特に、町の人に「どこかいい店ご存じですか?」って聞きますよね。  
**山口** 人と人とのつながりが濃くなるね。それに、同じ人どり度会う、3度会うってのが楽しいよね。もう1回会いたいっていう気持ちってすごく大切で、そうすると、不思議とまた次がある。

**有山** ほんとにその通り。僕らも、同じ



「ゴロツと焼きほぐし飛魚」県内で水揚げされた飛魚の一夜干しを海水塩だけで味付け。噛むほど旨味が、「鬼鯖」真鮫を独自の旨酢に漬く漬け込み、旨みを引き出した。「長崎県産からすみスライス」稀少な近海物のボラを使用し長期熟成。日本三大珍味。「戸石」とらふくの生ハム」高校生が開発した逸品。ふく刺しの食感を残しつつ、口に入れるとハーブと柑橘の爽やかな味が広がる。

**山口** 僕が49歳で知事になった時、他県の知事は年上の方ばかりでね。隣に若い知事が誕生してうれいんですよ。

ん見つけて紹介することで、「これいいんだ」という誇りや自信になったらしいし、そういうところを読者の方に読んでほしいです。観光と地域の振興というのか、それは一体だと思っただけです。

**山口** まさに『SとN』という、ある部分とある部分がつくつき合うということか。

**大石** 磁石ですね。  
**山口** 『SとN』はね、余計なこと書いてないの。講釈っぽくなくて、肅々と事実が書いてある。趣旨は「佐賀と長崎の歩き方」なんだけど、そういうことすら書いてな。旅や旅の出会いには、自分で考えようっていうことだよ。

**有山** SとNで磁石、というのは偶然だったんですよ。1号の取材を終えて帰ると、1日に、スタッフ全員にそれぞれタイトル案を出してくれ、その時にカメラマンの長野陽一くんが出した案なんです。「SとN」、すこいいいな、山口。そういえば、最初の号って「1号」って書いてないのよ。1号だけのつもりだったから(笑)。出してみたら、何となくみんなの心がつながって。

**大石** 始まりはいつですか。  
**山口** 2016年に取材を始めて、17年創刊です。あ、当時は創刊とは言えなかったですね。

**有山** 続かわからなかったから(笑)  
**大石** それから2県の連携事業が始まったんですよね。

**山口** 観光はもはや、一つの県だけで完結しませんが。  
**大石** 関東に住んでいた頃は、よくバイクに乗って1人旅してました。関東と長崎を10往復はしました。

**山口** 下道で、おし。  
**大石** ですから、ほとんどの県に行ったことがあるんです。地元の方に泊まって、地元の方々と触れ合ったり、地元のものを楽しむ旅でした。夜は赤提灯で「この辺りのオススメは何ですか」とか話をしながら、でも記憶は置いていく(笑)

**有山** 県内もバイクで回ってるんですか。  
**大石** 知事になってからは、ほとんどないですね。  
**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。

**山口** 知事になつてからは、ほとんどないですね。



「能古見大吟醸」2023年福岡国税局酒類鑑評会・吟醸酒の部で大賞を受賞。山田錦を35%にまで精米し、原料米の良質な部分を贅沢に使用。高精白することで、雑味のない綺麗な味わいとなり、お米のほのかな甘味を感じることができ。

**山口** せんか。インバンドしかり。  
**大石** そうね。もとは一つの団だから必然。

**大石** 長崎市から佐世保市への県内移動でも、一度佐賀県を通りますね。  
**山口** あの辺りは農業とかお茶とか、昔から一体ですからね。

**大石** 農業はおっしゃる通りで、波佐見(焼)と有田(焼)は、400年前から文化がつながっています。  
**山口** お茶は、今では佐賀は嬉野茶、長崎はそぎ茶という呼称が浸透していますが、かつては一緒に輸出してたわけですよ。

**山口** そう、一緒に、長崎と佐賀は、いろんな面で連携しながらやってきたんです。  
**大石** 空が本当に広いんですよ。

**有山** 山と海がすごく近くて、野菜もおいしいし。  
**大石** 僕は佐賀に行くといつも思うんですけど、平野の素晴らしい景色を感じるんですよ。4号で特集されています。広くて穏やかな、長崎はない給なんです。

**山口** 空が本当に広いんですよ。  
**大石** 長崎で2番目に広い平野が巻岐島、離島ですよ。それくらい平野がない県なんて。

**山口** 佐賀においでよ。餃子屋連れていくから。で、長崎で「鮎幸三」行こうよ、二人で。  
**大石** いつでも準備はできてます(笑)

**山口** いいよ。親父さんと次男が寿司屋やって、長男がすぐ近くで別の店やってる。それで今、次男に佐賀に店出しなよって口説いてんの。引き抜き(笑)

**有山** はははは(笑)  
**大石** 山口さんが来たら喜ばれると思うんですけどね。なかなか来ってくれないから。

**山口** 4号に載ってたあの店、「万徳。辛いまんま、町に煽り売らないって店ね。行ってみたいね(笑)

**大石** いいですね(笑)  
**山口** 佐賀でいいなと思うのは、唐津にある魚市場から直接調達してる店とかね。その日の魚によって料理が変わる。あれは秀逸ですよ。やたら鯛が取れた日とか、料理がすごいことになる。

**大石** こないだ長崎で、鯛がなんと1尾100円で売ってました(笑)  
**山口** 漁どの扱配が面白いよね。「今日はあれいけるよ」とかき。土地それぞれ相場観があって、そこに入り込むと面白いんだよ。コロナ禍の影響で若い人がコミュニケーションを苦手にしてるようだけど、佐賀と長崎に来てくれて、『SとN』を見て、町の人に声をかける。その最初の勇氣さえあれば、すこい楽しいの、でしょ?

**山口** (山口知事の熱量に) 笑。  
**有山** そう、それやってもらいたいんですよ。  
**大石** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる



大石賢吾 (おおいし けんご)  
2006年カリフォルニア大学デービス校卒業後、長崎大学熱帯医学研究所勤務。千葉大学医学部卒業、同大学院医学研究院博士課程修了。臨床医を経て、厚生労働省に入局。2022年3月長崎県知事に就任。現職知事で最年少、唯一の医学部卒。

語がいっぱいありますね。  
**有山** 旅する感覚ですよ。ね。  
**大石** それで今、民間事業者が主体となって「サイクルジグ」というサイクリングとクルージングを掛け合わせたものを始めようとしてるんです。船に自転車車を積んで、穏やかな大村湾を渡ってもらうと県内がグッと近くなります。自転車だと幹線道路だけじゃなくて下道も行くじゃないですか。地域の生活風景を見た、細いじりをしてる人と話したり、自転車なら素朴な魅力に気づいてもえらかな。

**有山** 7号で長崎は島原半島を取り上げたんですけど、独特で、ちょっと違う感じがしましたね。  
**大石** 島原って熊本の方が近いですからね。

**山口** 島原の乱(島原・天草一揆)で住民が減ってしまった。今暮らしている人の祖先の多くが移り住んできた人たちなんです。僕の故郷の白石町(佐賀県)もそうで、干拓した有明海沿岸岸って移住者が多いのね。  
**山口** 四国から大勢の漁師たちが、って聞きました。

**山口** そうそう。だから有明海沿岸は新たなものが生まれますよ。  
**有山** 人を受け容れる素養がある感じがしますね。  
**山口** それに仲間意識というか、みんなで助け合うよね。

**大石** そうですね。新たに入ってきた人たちだから、力を合わせないと勝てない、そういうことじゃない。  
**山口** じゃがいの栽培とかみんな頑張ってるね、あれだけの素晴らしい土地を作り出した。

**有山** 楽しかったですよ、島原は。山と海がすごく近くて、野菜もおいしいし。  
**大石** 僕は佐賀に行くといつも思うんですけど、平野の素晴らしい景色を感じるんですよ。4号で特集されています。広くて穏やかな、長崎はない給なんです。

**山口** 空が本当に広いんですよ。  
**大石** 長崎で2番目に広い平野が巻岐島、離島ですよ。それくらい平野がない県なんて。

**山口** 佐賀においでよ。餃子屋連れていくから。で、長崎で「鮎幸三」行こうよ、二人で。  
**大石** いつでも準備はできてます(笑)

**山口** いいよ。親父さんと次男が寿司屋やって、長男がすぐ近くで別の店やってる。それで今、次男に佐賀に店出しなよって口説いてんの。引き抜き(笑)

**有山** はははは(笑)  
**大石** 山口さんが来たら喜ばれると思うんですけどね。なかなか来ってくれないから。

**山口** 4号に載ってたあの店、「万徳。辛いまんま、町に煽り売らないって店ね。行ってみたいね(笑)

**大石** いいですね(笑)  
**山口** 佐賀でいいなと思うのは、唐津にある魚市場から直接調達してる店とかね。その日の魚によって料理が変わる。あれは秀逸ですよ。やたら鯛が取れた日とか、料理がすごいことになる。

**大石** こないだ長崎で、鯛がなんと1尾100円で売ってました(笑)  
**山口** 漁どの扱配が面白いよね。「今日はあれいけるよ」とかき。土地それぞれの相場観があって、そこに入り込むと面白いんだよ。コロナ禍の影響で若い人がコミュニケーションを苦手にしてるようだけど、佐賀と長崎に来てくれて、『SとN』を見て、町の人に声をかける。その最初の勇氣さえあれば、すこい楽しいの、でしょ?

**山口** (山口知事の熱量に) 笑。  
**有山** そう、それやってもらいたいんですよ。  
**大石** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

**山口** 僕ら自身がそれを楽しんでいる

構成: デザイン: 山口祥義、大石賢吾、有山 撮影: 山口祥義、大石賢吾、有山

第7号は2024年3月に発行。大阪府・京都府・兵庫県を中心とした関西地区、福岡都市圏、東京都内ほか全国の配布協力先にご協力いただいで配布しています。主に書店、生活雑貨店、ギャラリー、インテリアショップ、カフェ、飲食店などです。両県庁や、佐賀県首都圏事務所、佐賀県関西・中京事務所、長崎県東京事務所、長崎県大阪事務所にも設置しています。

●『SとN』バックナンバーのお取り寄せ。在庫確認は佐賀・長崎観光振興推進協議会の事務局までお問い合わせください。事務局 ●佐賀県観光課 〒840-8570 佐賀市内1-1-59 電話 0952-25-7098 E-mail kankou@pref.saga.lg.jp

●長崎県観光振興課 〒850-8570 長崎市尾上町3-1 電話 095-895-2645 E-mail s38030@pref.nagasaki.lg.jp

SNSでも情報を発信しています。Instagram, Facebookはアカウント@saganagasakiで、X(旧Twitter)は@saganagasakiです。

『SとN』のすべての号と『SとN pocket』のデジタルブックを無料で公開しています。https://www.asobo-saga.jp/digitalPamphlet/

佐賀・長崎の観光情報はこちらです。 ●佐賀県『あそぼーさか』 https://www.asobo-saga.jp/ ●長崎県『ながさき旅ネット』 https://www.nagasaki-tabinet.com/





SUN

